令和3年 12月	豊川放水路　愛護モニター報告	モニター区間	放水路：左右岸　0.0km～6.6km 管轄出張所：豊川出張所
実 施 日	令和　　3年　　12月　　4日	実 施 区 間	放水路：正岡橋付近

今日の放水路。正岡橋から　下流の景色です。

このあたりは　葦がしげり　鴨がいます。先日大雨が

降ったので　水量は　多いです。このあたりは雨の

降らない日が　続くと　川底が見えます。

今月は　先日　豊橋市民センターカリオンビルにて　開催された　豊橋市文化財センター第5回

とよはし歴史座　「豊川下流域の伝統的治水システム「霞堤」」　の模様をレポートします。講師は愛知

大学名誉教授の藤田佳久さんです。

　豊川の上流部には、中央構造線の活動によって花崗岩が変質した変成岩地帯が　分布します。これら

の地域では土壌の発達が悪く、地域に降り注いだ水はすぐに河川に流下してしまいます。しかも源流部

での降水量が多く、流域面積が小さいことから降雨時の増水が急激で、洪水時は鉄砲水と呼ばれるほど

の激しさになるということですが、私の記憶の中では　豊川流域では稲作が　盛んで秋には田んぼ

いっぱいに　お米が　実るという記憶しかありません。しかし、藤田先生の話では　このあたりは戦前まで

人口に対して収穫できるコメの量が少なく、よそから　常にお米を買わなくてはならない状態にあったそう

です。ましてや　昔は現在杉や檜の森となっている奥三河も　焼畑や田畑の肥料とするための草を得る

ための草刈り場であったため、降った雨は　瞬時に平野に流れ込み、そのため豊川下流域では毎年の

ように　水害が起き人々が苦しんだので、江戸時代の初めころには　霞堤が作られそうです。昭和30

年代には9か所あったと言う霞堤ですが現在の堤防とは違い、大雨が降った時には　わざと　水をあふれ

させることによって　田んぼや市街地を守るわけなので　霞堤の近くに住む人々は大変だったでしょう。

家の軒先に　船をつるしてある住宅を見た記憶が　あります。

　そのようなわけで　豊川放水路が　建設されるわけですが、その計画が明治32年に始まり第二次世界

大戦により中断されるも、昭和30年に工事が　始まり10年の歳月ののち昭和40年7月13日に

通水式がおこなわれたなどあらたに知ったことばかりです。

ましては　放水路をどのルートに作るのかに　4案あって他の案が　採用されれば、今とはまったく違う

景色になっていただろうなど　　とても有意義な講演会でした。

河川愛護モニター	